

皆様からご相談頂いたご要望にもしっかりと働きかけていきます！

地獄坂の手すり設置

平成30年6月議会の一般質問で地獄坂の上部、入谷老人憩いの家の裏側のスペースを活用してぬくもりあるベンチと手すりの設置を提言いたしました。昨年ベンチの設置については完了しましたが、手すりについては、安全対策の為、老人憩いの家の敷地を少し削り、道路幅を広げるといった配慮が必要だったため少し遅れての設置となりました。



通学路のグリーンベルト(カラー舗装)

東建座間ハイツ裏の市道入谷250号線は立野台小学校に通う児童の通学路になっていることから、安全対策の為にカラー舗装を実施しました。この通路に関しては2年前から自治会様からも要望が出ておりましたが、今回通学路の変更などもあったことから改めて要望をし、実現することができました。



他にもこんな活動をしています！



消防団操法大会で指揮を務めさせて頂きました。



ひまわりまつりでステージイベントを運営させて頂きました。



若市議会の研修を座間市で初開催させて頂きました。

市政報告会のご案内

令和元年10月19日(土)

午後3時～午後5時

サニープレイス座間 (総合福祉センター) 研修室

座間駅前の今後の展望や本市の教育行政についてお話をさせていただきます。



主催：内藤幸男と座間の未来を考える会

後援会へのご加入も随時募集しております。お電話090・6107・3467もしくはメール zama@naito-yukio.comにてご連絡ください。またご要望なども気軽にご相談ください。

内藤幸男と座間の未来を考える会 市政ドリル 第27号

9月議会版

責任感

郷土愛

情熱



座間市の市政と一緒に考えましょう！

問1

今定例会では座間駅前に地域活性化を目的に活動している団体が移転するための補正予算が組まれました。その団体とは？

①(一社)座間青年会議所

②座間市商工会

③(一社)座間市観光協会

問2

小田急電鉄(株)がCSRの一環で上記団体が入る小田急マルシェⅡ2階にコミュニティスペースを開放する予定です。CSRとは何でしょう？

①社会への貢献責任

②地域への慈善活動

③社会問題の解決

令和元年度
第3回定例会

座間駅前に観光協会が移転
今後の駅前活性を期待

今回の定例会では、平成30年度座間市一般会計歳入歳出決算の認定、令和元年度座間市一般会計補正予算など計21本の議案について採決を行いました。

平成30年度座間市一般会計の歳入歳出決算の規模は、歳入総額415億7708万円、歳出総額は401億6698万円で、歳入は対前年度費21億1580万円の減、歳出は23億3073万円の減であり、歳入の地方交付税、財産収入および市税が当初予算を大幅に下回ったものの、年度間調整のための財政調整基金を効果的に活用することで第四次座間市総合計画の基本構想に掲げた9つの将来目標を着実に推進するための実施計画事業がほぼ全て予定通りに実施されました。

また、補正予算では座間駅前に移転する(一社)座間市観光協会を支援するために、観光協会補助事業費470万円余が組まれました。座間駅前はこれまで空き店舗が目立ち、地域住民からは活性化させてほしいという要望がたくさん上がっておりました。今回は観光協会が移転すると共に小田急電鉄(株)がCSRの一環として地域活性化に活用できるコミュニティスペースを開放するというであります。市観光協会がシティブロモーションの機会を広げると共に、座間市と小田急の関係が一層深くなるものであり、座間駅前のまちづくりを座間駅近くに住む方々や駅利用者も含めて共に考えていける絶好の機会になると捉えています。

観光協会が入る移転先の概要
小田急マルシェⅡ2階
市観光協会は面積87.75㎡のうち22.23㎡を賃借
残りの約65㎡を小田急(株)が開放し、コミュニティスペースとして活用できるようになる



確かな一歩の積み重ねで座間市の未来へつなぐ。

答え 問1 ③、問2 ①



内藤幸男と座間の未来を考える会

☎090-6107-3467

〒252-0028 座間市入谷東3-8-23

✉ zama@naito-yukio.com

HP

f

内藤幸男

検索

討議資料

令和元年第3回定例会一般質問と答弁の主な内容



内藤幸男 議員

9月9日の一般質問では「ひまわりまつり」、「小中学校における遠隔教育の導入」について質問をさせていただきました。以下主な質問と答弁の内容になります。

◆ひまわりまつりが1か所になったことについて

ひまわりまつりについて、栗原会場が中止となり、座間会場1か所（詳細には座間エリア・四ツ谷エリア）になった事による利点や課題などがありましたら伺います。

【環境経済部長】 会場が集約され、さらに一つの期間に集約されたことで各団体が十分な準備期間を持つことができ、ひまわりまつりに向けた人的資源や資金が集約できたことなどが利点であったと考えます。

◆新たな取り組みについて

本会場の雨水対策や写真映えするスポットの設置、四ツ谷エリアのステージイベント等新たな魅力づくりにも力を入れているのを見て感じ取れました。今回このような新たな試みを行って見て、当局として感じた見解を伺います。

【環境経済部長】 雨天時のぬかるみ対策や案内ボードの設置、新しい写真撮影スポットは、来場者の満足度向上につながったと思います。

また、四ツ谷エリアで開催したステージには30を超える団体に出演していただき、にぎわいを演出したことによって、昨年度に比べ、四ツ谷エリアへの来訪者も増えたことは、一定の効果があったことと捉えております。

◆臨時バスの混雑について

今年は相武台前駅からの臨時バスを増便しましたが、それでも停留所から駅の改札まで行列が出来る等、混雑が目立ちました。相武台前駅からの増便だけでは混雑の解消が出来ない状況になっていると感じますが、どのように捉えているか伺います。

【環境経済部長】 ひまわりまつりが座間エリアと四ツ谷エリアに集約され、昨年以上に来場者が集中したことで、相武台前駅北口から会場へ向かう直行臨時路線バスの停留所に混雑が生じました。今年の実情を整理して、神奈川中央交通と協議し、市内回遊策、来場者の安全確保などを踏まえて、実行委員会で臨時路線バスの運行について検討してまいります。

以上の答弁を受けて、新宿駅の方面から来られる方を相武台前駅、逆に海老名方面や横浜方面から来られる方を座間もしくは海老名駅という形で、2カ所に分けて臨時バスを発車することを提言しました。「座間警察署、神奈川中央交通等の関係機関と協議を行い、実行委員会で協議していきたいと思っております」とのことでした。

◆遠隔教育についての本市の捉え方は？

遠隔教育は、映像や音声を利用した遠隔での授業を行うもので、文科省が今年6月末日に発表した「新時代の学びを支える先端技術活用推進方策（最終まとめ）」の中で政策の柱として掲げられています。この遠隔教育について本市ではどのように捉えているのか見解を伺います。

【教育長】 遠隔教育は重要な学習支援の方法の一つとして捉えています。例えば遠隔地や外国の学校との遠隔授業、学校間交流活動、病院で学ぶ院内学級等では効果を発揮するものであり、今後の教育の可能性を秘めたものであると考えています。

◆外国語指導助手（ALT）の不足問題の解消に向けた遠隔教育の可能性は？

新学習指導要領によって外国語活動の時間が増えるため本市ではALTが国や県の予算で配置できるよう要望を上げていますが、他自治体も同様の状況であり、ALTを確保することが困難になることも考えられます。まず、新学習指導要領に基づいた外国語活動時間の増加に伴い、本市で検討しているALTの配置時間を伺います。また、その配置時間に対応するために必要なALTの人数と必要な予算を伺います。

【教育長】 令和2年度のALTの派遣計画については、小学校3、4年生は年間35時間のうちの35時間程度、5、6年生は年間70時間のうちの40時間程度派遣する予定です。この派遣時間に対応するために必要なALTの人数は7人程度です。予算額については、ALTの派遣契約は平成30年度から3カ年契約ですので、令和2年度の債務負担行為の上限額についてお答えすると、2,700万円程度になります。

次に遠隔教育を外国語活動時間で導入した場合のメリットと、もし課題のようなことがあればお聞かせください。

【教育長】 海外の学校とのテレビ会議での交流など、遠隔システムが有効な場合と、児童・生徒とともにアクティビティーなど、教師とALT、児童・生徒が物理的に同じ場所にいることが重要である場合があります。効果を発揮しやすい学習場面や目的、活動例について理解を深めると共に、授業の狙いに応じて適切に活用する必要があると考えます。

◆不登校児童・生徒等への遠隔教育の活用についてどのように考えているか？

不登校児童・生徒等の学習機会を確保するために、遠隔教育の活用を今後どのように考えているか伺います。

【教育長】 本市では家庭で各自の学習レベルに応じた学習を進めることができ、学習の様子や履歴、結果を教員が確認することができる学習支援ソフトを導入しました。活用についてはまだ日が浅く、実績を取りまとめている最中ですが、今後このような取り組みによって、不登校の児童・生徒の学習の機会の確保が進むことを期待しています。

企画総務常任委員会視察 北海道室蘭市・北竜町・札幌市

室蘭市

朝の情報番組「グッド！モーニング」のニュース検定で池上彰さんも取り上げていた、室蘭市の「マイナス入札」について担当局に話を伺いました。

マイナス入札は、宅地活用などが見込めず塩漬けになる懸念がある市有地を売却するため、予定価格をマイナスに設定しておこなう入札方法です。近年、買い手が見つからない遊休資産の民間活用を促す手法として注目を集めており、室蘭市その他、埼玉県熊谷市（昨年視察）が実施しており、情報番組などにも取り上げられています。

室蘭市では、平成29年に旧室蘭地方高等職業訓練校跡地をマイナス入札し、この時はプラスで落札。そして本年3月には旧総合福祉センター敷地をマイナス入札し、881万4000円で落札されています。

室蘭市の担当職員にマイナス入札の導入効果を聞いたところ、
①土地の譲渡と建物の解体をセットで契約することで解体後の土地利用の確度が高くなり、税収と地域活性化が見込める。
②市が自ら解体した場合と比較して、1000万円以上の節約効果があった。ということでありました。

本市は今秋、公共施設再整備計画の素案が策定される予定ですが、統廃合や利活用など、様々な手法を検討して、将来をしっかり見据えながら考えることが大切だと感じました。

北竜町

日本一と言われる150万本のひまわりまつりを実施している北竜町で現地視察を行い「ひまわりを活用したまちづくり」について説明を受けました。



北竜町のひまわりまつりは、昭和54年に食生活の改善と環境美化を目的に約500世帯の農家婦人によって行われたことが始まり。昭和62年に、町民の意志を集結させたひまわりまつりへと拡大され、平成元年にはひまわりの里を造成、さらに平成18年からは23ヘクタールを越す敷地に150万本のひまわりが植えられ、約1カ月間のひまわりまつり期間中には様々な催しが行われています。

ひまわりによって観光客が増え、農家の後継者や商工者の跡継ぎが戻ってきたりという効果も現れてきているそうです。

本市も55万本のひまわりまつりを開催し、郷土愛の醸成に努めています。今回の視察での学びを活かして、9月定例会ではひまわりまつりについて一般質問をさせていただきました。

札幌市

増加する救急出動件数や外国人傷病者とのコミュニケーションの問題など、救急現場の課題解決を図るため、「ICTを活用した取り組みを行っている札幌市消防局」について視察しました。

主な機能

外国人傷病者に対応するための多言語翻訳機能

新規医療機関の情報や処方箋の情報など電子化して情報を簡単に引き出すための電子情報取得機能

現場から医師に適切な情報を送り迅速な治療に繋げるための画像伝送機能

医療機関の受入不能情報等を救急隊間で共有し、速やかに把握するための受入要請効率化機能



本市でも救急出動件数が増加しており、さらに外国人居住者の増加やキャンプ座間があることなどを考えると、消防業務効率化のためのICT化はとても有効な手段だと感じました。



マイナス入札で落札された旧総合福祉センター

マイナス入札による市有地処分の効果

